

PACIS (Pacific Asia Conference on Information Systems) 2016 in Taiwan

大串葉子 (おおぐし ようこ)
新潟大学

1. はじめに

PACIS 2016は、台湾の嘉義市ナイスプリンスホテルにおいて、6月27日から7月1日までの5日間の日程で開催されました。嘉義市は、木材や製糖業が盛んな台湾中西部の都市で人口は約20万人、2007年に新幹線が通り、2015年12月には国立故宫博物院南部院区がオープンするなど、都市としての基盤整備が進みつつある中核都市です。ただ、街の中心に駅のある台鉄と違って、新幹線の停まる「高铁嘉義駅」から会場まではタクシーでもバスでも約30分と距離があり、駅のホームに降り立った時点でPACISの参加者とおぼしき人影はまばらでした。こじんまりした都市の外観から、新幹線の駅では多くの学会関係者を見かけるだろうという予想は外れ、「本当に国際学会が開かれている都市なのか」「参加者は十分いるのか、心配だなあ」と一抹の不安を抱えて改札を出ると、数名の学生さんが案内板を手に待機していて、わかりやすい英語でタクシー乗り場まで案内してくれました。まずは、安心して会場へと急ぎます。

2. 盛大なウェルカム・パーティ

今年の大会のメインテーマは、「未来社会のためのITガバナンス」。会場についてみると、ホテルの玄関横にはPACISの大きな看板が設置されており、メインロビーのすぐ脇では、受付が行われていました。ほぼ、学生が運営しているとおぼしき受付は極めてスムーズで、多くの参加者を見事にさばきながら必要な一式を渡していました。一緒に渡された名札の中には、これから4日間にわたる学会での昼食や、ガーラディナーに必要なクーポン等がぎっしり詰め込まれています。これらが必要な枚数あるかどうかを確認し、いざウェルカム・パーティへ。参加



写真1 盛り上がったパーティ

者全員に配布されるポロシャツは青、学生スタッフは赤、アカデミックスタッフは紫と色分けされているので、見分けるのも簡単です。香港大学での在外研究でお世話になったProf. Patrick Chauも紫のスタッフシャツを着ていて、人目につくのですぐに再会の挨拶ができました。ウェルカム・パーティは飲み物、食べ物ともに和洋中の様式からバフェ方式で選択することができ、寿司をはじめとする日本食もとても充実していました。

3. 充実の発表とポスターセッション

美味しかったのは食事だけではありません。「トップレビューへの掲載に、何が重要であるか」をテーマにした基調講演は、400人ほどが座れる大会場が満席でしたし、発表のラインナップも非常に充実していました。

6月30日のガーラディナーの際に発表されたプログレス・リポート[1]によると、30の個別テーマ(Tracks)に対して、49カ国1924名の著者(共著者を含む)から741の投稿論文があったそうです。全投稿数のうち、アジア各国からが63%で、アジア以外が37%、国別のトップは中国の22%、それに15%の台湾、そしてオーストラリアが同数で続いていました。今年の採択率は56%と比較的



写真2 基調講演：トップレビュー掲載への道



写真4 次期開催国はマレーシア！



写真3 賑わうポスターセッション

高く、総投稿数 741 本のうち 398 本が採択されていきました（採択内容：正式な研究成果報告としては 204 本，進行中の研究報告としては 40 本，そしてポスター発表は 154 本）。

個別テーマごとの採用本数も、同様に約 50% くらいでしたが、「オンデマンドとシェアリングエコノミー」は採用率が高く、13 本のうち 12 本が採用されていました（チェアやエディタの名前と所属は、PACIS2016 のホームページから確認できます）[2]。

参加登録は、総数で 560 名（アカデミックが 361 名，学生が 196 名，企業からが 3 名）で，日本からも JASMIN の会員を中心に多くの発表が採択され，参加者数も 20 名と，一定の存在感を示していました¹⁾。

4. 「延長」が示す興味深い 2 つのデータ

先述のプログレス・リポートでは，時間に関する

¹⁾ 参加登録 560 名のうち，登録数第 1 位は中国で 118 名，第 2 位が開催国でもある台湾の 110 名，第 3 位がアメリカの 58 名，そしてオーストラリア 50 名，ドイツ 39 名，韓国 29 名，香港 24 名と続き，日本の 20 名は国別で 8 番目の登録数でした。

面白いデータも公表されました。総投稿数 741 本のうち，投稿時期のピークは投稿開始日から第 10 週目，すなわち，当初の締め切り後です。当初の締め切り（3 月 4 日）までは 208 本しか投稿されず，投稿期日が延長された 1 週間の間（3 月 5 日から 3 月 11 日）に，何と 533 本が投稿されたのです。実に約 73% が延長期間に投稿されたもので，大会本部は安堵するとともに厳しい日程での審査を余儀なくされたようです。

もう 1 つ，参加登録時期のデータも驚く内容でした。当初，早期割引での登録期間を 3 週間もとっていたのですが，第 1 週目に登録したのは何と 1 名のみ。第 2 週目に 131 名，そして早期割引の終わる第 3 週目になって 182 名と最大数を記録しています。参加登録の早期割引も 1 週間延期されたのですが，その延長期間で 178 名が登録しています（早期登録期間延長のアナウンスは，登録開始後 2 週間目に発表されています）。早期割引終了後，オンライン登録を行ったのは計 68 名のみです。投稿論文の採用発表の時期も加味する必要があるでしょうか，早期割引が登録の促進に威力を発揮したと言えそうです。

5. おわりに

会場では，メインホールのそばに，次の開催国であるマレーシアがブースを設けて，参加者に対してアピールをしていました。PACIS 2017 が開催されるマレーシアの会場はリゾート地で，ホテルの値段が非常に高く，割引率の高い期間に早期登録とホテルの予約をするように促していたことが印象的でした。



写真5 チーム JASMIN

2018年には、横浜でPACISを開催することが決定しています。我ら日本も、受付にPACIS 2018のパンフレットをおいてもらうとともに、ガーラパーティ時には、木嶋会長や岸副会長を先頭にして対面で配布してまわりました。2018年は、きっとあっという間に来るでしょう。この大きな国際大会の運営には多くの皆様の協力が必要です。周到な準備をしつつ、チームJASMINで楽しみに待ちたいと思いつつ、台湾を後にしました。

参考資料

- [1] PACIS2016 Progress Report (ガーラパーティでの発表資料より)
- [2] PACIS2016のホームページ (2016年7月10日に確認) <http://www.pacis2016.org/Page/Index/71>

略歴

大串 葉子 (おおぐし ようこ)

1997年英国マンチェスター大学大学院修了、2000年九州大学大学院経済学研究院博士後期課程修了。博士(経済学、九州大学)。2001年新潟大学経済学部准教授(現在に至る)。